

例会 NO 115

No 3- 30 1993. 2. 24 発行



1992~1993RIテーマ
まことの幸福は
人助けから
RI会長 クリフ・ダクターマン



Weekly Report

国際ロータリー第2750地区 東京多摩グリーンロータリークラブ

1992~1993年度クラブ目標 “地域を見つめよう……地域にロータリーの輪を……”

第115回例会報告 (2/17)

司会 SAA 足立潤三郎
☆点 鐘 会長 赤尾 恭雄
☆ロータリーソング 「それでこそロータリー」
ソングリーダー SAA 若林 滋和

☆会務報告 会長 赤尾 恭雄

* 第3回クラブ協議会が2/10 例会後に開催されました。これを受けて、今後早急に各委員会を開催して下半期の具体的な動を実施して下さい。

* 2/13 (土) ロータリー情報委員会の「ロータリー情報交換と懇談会」が行われ、会員の過半数が参加した活気あふれる素晴らしい勉強会となりました。事前の資料作成や会場準備に鋭意努力されたロータリー情報委員会の方々に感謝致します。尚、今後テーマを絞った形で今期2回程度の開催を期待したい。

* 2/12 (金) に東京小金井RC創立30周年記念式典が小田急センチュリーハイアットで開催され出席して参りました。このRCの特徴は、創立以来、特に例会出席がやかましく、それが伝統となって今でも地区内で最高の出席率を保っており、出席してみても、それがクラブ奉仕の実績に直結している様子が実感出来る素晴らしい式典でありました。

* 2/16 (火) 東京田園調布緑RCのチャーターナイトが新高輪プリンスホテル国際館バ

ミールで開催され、出席して参りました。このクラブは今年度地区リーダー会議長の村松濱代氏が拡大補佐として実務的に指導された新クラブであり、配布されたパンフレット12頁にわたって掲載されている「拡大の経過について」はそのまま拡大のマニュアルになる綿密なものでありました。

会員数52名。(内創立会員45名)

☆幹事報告 幹事 遠藤 二郎

* 全国会員名簿とロータリー手引き(92年)の申込みは本日〆切日です。

* 武蔵国分寺RCのチャーターナイト

時: 4/6 登録: 午後4時 場所: 帝国ホテル

申込みは本日中午にお願い致します。

* ロータリー財団米山記念奨学会から「ロータリー米山記念奨学会史」の申込みについて回覧致します。



☆委員会報告

★親睦委員会 親睦委員 藤本 吉文

ニコニコBOX

赤尾 恭雄 先週土曜日のロータリー情報研修会は大成功でした。ロータリー情報委員

会の活動に敬意を表して。

遠藤 二郎 13日のロータリー情報研修会は
大変勉強になりました。田中さん、大熊さ
ん、吉田さん、お世話になりました。

村上 久 大きな仕事が決まりました。

吉田 文夫 先日のロータリー情報の会には
休日にもかかわらず、皆様出席有難うござ
いました。

森田 舞子 2/13情報委員会の講習、有難う
ございました。又お願いします。

伊神 稔 久しぶりです。

海野 栄一 久しぶりの雨です。

吉沢 洋景 この雨で流感も下火になります
か？

杉田 誠 ロータリー情報の皆様ご苦労様
でした。

藤本 吉文 やっと風邪の方も良くなった。
皆様風邪には気を付けて、のどのうがいを
しましょう。

以上合計 18,000円

★出席委員会

出席委員 海野 栄一

〔出席報告〕(出席免除者1名)

	総数	出席	MU	欠席	出席率
本日 報告	46	42	3	1	97.83%
前回 訂正	46	39	4	3	93.48%

〔今週のメークアップ〕

大熊 将夫 (2/16 多摩RC)

横倉 恒雄 (2/16 多摩RC)

高野 範城 (2/16 西南RC)

〔欠席者〕内藤 實

★ロータリー情報委員会

ロータリー情報委員長 田中 實

2月13日(土)に行
われたR情報委員会主
催の「情報交換と懇談
会」に多数の方のご参
加、特に赤尾会長、横
倉会長エレクト、遠藤
幹事そしてクラブ奉仕
の萩生田会員以下沢山



の方々に参加して頂きまして、非常に有意義
に会を催すことが出来まして、有難うござい
ました。尚、当日参加の申込みを頂いていた
が都合悪く、出席出来ない方が若干ありまし
たが、申込者の90%が出席されました。

会計については、京王プラザホテルでの懇
親会の費用は18万円、それに対する登録料13
万円、R情報委員会の予算より4万円補助し
て、その他は寄附金で賄いました。途中で頂
いたお茶の代金は大熊会員のご厚意で頂戴す
ることに致しました。

※【会計報告】

会計 伊神 稔

平成5年1月までの
会計が別途配布のとおり
報告された。

資料の説明では大体
予定通りですが、収入
の入会金が、当初の予
定より2人分少ないで
す。皆様のご協力で達
成したいと思えます。ニコニコBOXは、3
年、5年、10年記念行事とか、社会奉仕その
他に良いイベントを行うために取り崩して良
いもので1月末で、3,712,291円となっております。



※【被選理事会報告】

会長エレクト 横倉 舜三

次年度のクラブ組織
の編成が終わりました
ので、活動計画につい
て具体的に相談計画し
たいと思い、協議会を
来る3月3日(水)午
後6時より、多摩そご
う6階「銀杏の間」で
開催致します。ぜひ各委員会の委員長、副委
員長、各理事は別途通知いたしますが、ご出
席お願い致します。



《3分間ミニ情報》

「規定審議会・制定案・決議案」

永田 健作

規定審議会とはR1のいわば議会として、
R1定款・細則とロータリークラブの定款の

制定、改正を審議する機関である。3年に1度開催される。各地区から1人ずつ選ばれる投票権を持ったクラブ代議員のほか、R1細則に定める人々で構成される。

制定案はR1の定款・細則或いは標準ロー

タリークラブ定款を改正する意図で、規定審議会に提出される案件のこと。R1定款の改正には、規定審議会での投票数の2/3の賛成票が必要である。R1細則及びクラブ定款の改正には投票数の過半数が必要とされる。ただし、規定審議会で採択された制定案又は決議案の最終的採否は、郵便で全世界の全クラブの再審議にかけられる。その再審議で、全クラブの行使し得る投票数の10%以上の反対があった場合、その案件は無効となり、国際大会に提出、最終表決に付される。

決議案はR1の方針又は手続きの設定、或いは廃止を目指して、規定審議会に提出される案件である。この採択には規定審議会で投票数の少なくとも過半数の賛成投票が必要とされる。制定案や決議案を規定審議会に提出できるのは、R1理事会、規定審議会自体、もしくは地区大会、或いはクラブとグレート・ブリテン及びアイルランド内のR1の審議会又は大会で、会員個人は提出出来ない。

~~~~~【卓 話】~~~~~ (2/10講演) ~~~~~

### 『今日本及び国際政治に何が必要か』

東京大学教授 佐々木 毅様

私は政治学の専門家でして今興味を持っているというが、やらされているものの一つに政治改革があり、民間政治臨調の文章書きなどで昨年来やたらと忙しいのです。日本国内の政治改革問題は今後も盛り上がるのでしようが大切なのはこの問題をどういうふうにかえたらいいのか。日本の政治の姿、形という



ものが全体としておかしな面が出てきたのではないかという気が致します。

ところで政治の改革はあっちこちの国で行われ話題になってきている。アメリカ大統領選でも話題になり、ベルギー、イタリアなども選挙制度を変えようという意見が出ている。どこの国も数年の大きな世界経済の変動でガタがきているのも事実で旧社会主義国でなくとも、それなりに病気を抱え込んでいるということが解ってきた。20世紀の文明というものが政治の条件を変えてきていることが大きい。例えば技術の発展、コミュニケーションのすごいスピードとは今までの政治のスピードとは波長が合わないものとなっている。ある人に言わせると議会は農業社会を前提にし、官僚制は産業社会を前提にして成り立っている。現在はもっと知識集約形の社会になってきており、議会も官僚制も使いものにならなくなってきているのではないかと、それらに代表される様に政治の仕組みが旧来の遺物のようなものになりつつあるのです。政治を締め直そうとすることは、どこの国でも避けて通れないやっかいなテーマになっている。ヨーロッパのEC統合も、通貨統合もその一つで大きなリストラをやっているのです。そうでもしなければ政治そのものが古くなっていってしまう。

我国の場合はその中でも独自の課題を背負っている。政治のかかえる問題の種類がどんどん広がっていった国内の問題だけを取り扱っている時代ではなくなってきているのでありまして、スピードはおそろべきものがあります。20世紀の今迄の頭で考えてきたこととは大分違った事が起って来て、それが考えただけでなく相当なスピードで判断しなければならぬばかりでなく、実行しなければならぬ時世になって来ているのです。政治の役割がやっかいになってきていることは事実であります。政治というものが従来より求心力を持たなければならないし、今までとは違ったもので政治の切れというようなものが必要になってくるでしょう。

日本を取り巻く環境の中で日本だけが日向ぼっこばかりを続けている状態にない、たと

例えば中国、朝鮮の問題、日米の自動車の問題などそういったものを横に置いておいて日本ではスキャンダルだと、問題を解決しなくてはいけない政治が問題を起こしてしまっていてにスッコロンしているという印象がいなめに誠に困ったことであります。

戦後の日本の政治はメンテナンスをやってこなかった、一つだけやったことは金を多く導入するというのでその他のメンテナンスはやってこなかった。何でもそうであるが、メンテナンスをしないで長い間使っていれば無理がくるのはあたりまえである。

そこで乱暴ではあるが戦後の日本の政治を3つに区切ってみると多少すっきりすると思うのです。

第1期は昭和30年頃迄で、まだ貧しく、占領されていて軍隊がなくなり政治もそれなりにやっていたと思う。

第2期は、その後の30年、経済成長の時期とでもいうか、幸せな時期でどちらかというところ経済で国民の統合が保たれていて政治は補助的役割でなかったかと思う。

第3期、この5～6年を見ると大分違って、日本が成功につく成功を続ければ周りはみんな喜んでくれるという時代は終わった。妬み、反発がおしよせてくる。しかも冷戦も終わりある意味では政治が最後まで掲げている看板が消えてなくなってしまった。そして残ったのはスキャンダルだけということになってしまったのです。他面どこで何が起こっても日本の政治にプラスになる話がないということも不吉な傾向にあり、バブルも、湾岸戦争も、クリントン政権もあまり良い話ではないのではないか。今迄通りやっていけばなんとかしのいで行けるという状態ではなくなってきている。これが第3期という姿ではないでしょうか。今政治が構造的にムリな時代に入ってきているのではないかと。端的に言って基本的仕組みが権威を失っている。国会がどうにも

ならない、何を達成したのか解からない、という状態ですから、とても国権の最高機関などという気がしないのです。内閣というもの、これもなんだか解らない。時々大臣が変わるというぐらいで何をやっているのか解らない。ということは公的な制度ないし、仕組みというものがさうとう存在感が失われて来たのではないかと、それがなぜ具合が悪いかということと責任の問題と権力の問題がつれていってしまうことであり、民主政治は責任と権力は一緒にしておいてもらわないと困る。いいかえれば責任は取ってもらわなければ困るわけがあります。それが内閣と与党が二重構造のようになっていて無重力状態の中で漂っている。これは制度が疲労してしまったということでもあります。

総理大臣の権限もサビてしまって佐川事件に代表されるような金で求心力を作る時代はもう終わったのではないかと、というより無理である。そこでもう一度仕組みを作り変えるというところから始めて政治資金、選挙制度、こころあたりから入っていくことをやらなければだめだろう。今までと同じことをやっているのではだめで、これで世の中がパッと変わるわけではないが、とにかくやらなければならぬでしょう。

まったく政治の環境と政治の世界が変わって来ているのも事実で旧来の与党と野党のワクの意味がなくなってきているのでして、もはや政治改革を言わなければならないような状態になってきているのです。そして新党の時代に入ってきていると同時に新党の使い捨ての時代になってきているのもまた事実です。

日本は大きな二つの政党の間でもなれあった構造になっているので、片方が変われば必ず他に波及するのでありまして、環境も変わり、仕組みも、担い手も変わり日本の政治も少しずつ動いているということを確認していただきたいのであります。



## 東京多摩グリーンロータリークラブ

会長：赤尾恭雄  
幹事：遠藤二郎  
会報委員長：奥田文夫

副委員長：津守弘範・委員：北村幸彦  
杉田 誠・佐伯和廣・隅 耕造  
小島周二郎

事務局：東京都多摩市落合547  
多摩センタービル7F  
TEL 0423(72)6463/FAX 0423(72)6491

\*例会場 多摩そごうアパート7F サファイヤバンケットルーム

\*例会日 毎週水曜日12:30 月の最終例会18:30